



# 但馬国府・国分寺館ニュース

2006.10 第5号

編集・発行

但馬国府国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町袴布 808  
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112  
http://www.city.foyooka.lg.jp/kokubunji/



国宝 桜ヶ丘5号銅鐸（複製・部分）野洲市教育委員会 蔵

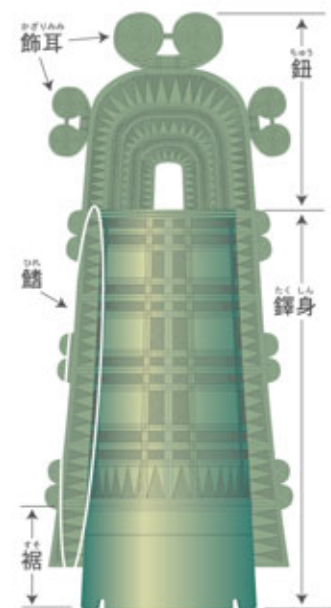
## 第7回企画展「<sup>どうたく</sup>銅鐸—美と謎を考える—」を開催！

稲作が本格的に始まった、弥生時代。人々の前に、銅鐸というカネが現れました。金色に輝く金属の光沢や、カラカラと鳴り響く金属音は、彼らにとっては初めての経験で、驚きと感動を与えたに違いありません。現代人をも引きつける不思議な魅力をもつ銅鐸は、弥生時代の人々にとって日常からかけ離れた特別な存在だったのでしょ

う。銅鐸は、中に吊<sup>つる</sup>した棒がカネと触れ、音が鳴る仕組みになっていますが、用途は楽器ではなく、まつりの時に使った特別な道具とされています。銅鐸は誰が、何のために、どのようにして作ったのでしょうか。なぜ使われなくなったのでしょうか。皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

■第7回企画展「銅鐸—美と謎を考える—」  
平成18年7月6日（木）～9月26日（火）

■協力いただいた機関  
神戸市立博物館 滋賀県野洲市教育委員会 奈良県田原本町教育委員会  
兵庫県丹波市教育委員会 兵庫県南あわじ市教育委員会 文化庁（50音順）



図① 銅鐸の形と各部分の名前

## 銅鐸の美しさ

### 銅鐸の形

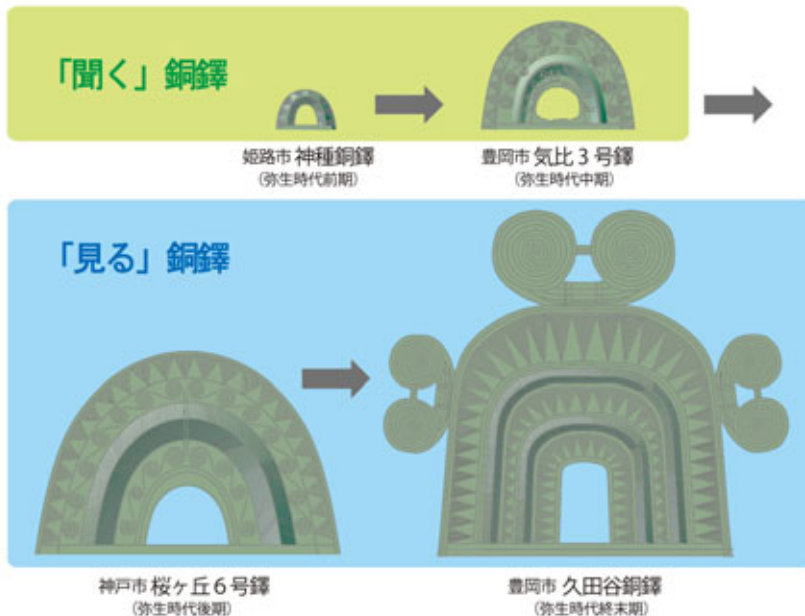
銅鐸は取手のついた風鈴のような形をしています。それもそのはず、銅鐸は、朝鮮半島で使われていた「銅鈴」が起源なのです。銅鈴は、小型で模様が少なく、呪術師や祈祷師が使うカネだったと考えられています。もともと銅鐸は、音を聞くための道具だったのです。

江戸時代に淡路島で見つかった中川原銅鐸（写真①）は、形が銅鈴に似ていることや、厚くて模様の少ない鈕、狭い鱗などの特徴から、兵庫県内最古の銅鐸とされています。

やがて銅鐸は大きくなり、周りに飾耳など、カネとは思えないほど立派な飾りがつくようになります。滋賀県野洲市で見つかった大岩山Ⅰ-1号銅鐸（写真②）は、高さ134.7cm、重さ45.5kgと日本最大。こうなると銅鐸は鳴らして音を「聞く」ことはできません。置いて「見る」ものへと変わったのです（図②）。



写真① 重要文化財 中川原銅鐸（複製）  
（高さ24.2cm、南あわじ市教育委員会蔵）



図② 銅鐸の移り変わり（鈕部分での比較）

### 銅鐸の絵

銅鐸には模様だけではなく、絵が描かれたものがあります。その絵は実に多彩で、解釈はまだ定説がありません。ただ、脱穀と倉庫の絵から、稲作が重視されていたことは明らかです。また、描かれた動物・昆虫が、弱者を食べる種類であるため「弱肉強食の世界にあって、人もまた狩りをして生きていた。しかし今、稲作を知って倉には米が満ちている。いざ、神をたたえようではないか」という内容の農耕賛歌だとする解釈もなされています。豊作を祈ったり、収穫を感謝したりするまつりの場で使われたのでしょうか。



図③ 銅鐸に描かれたさまざまな絵



写真② 重要文化財 大岩山Ⅰ-1号銅鐸  
（復元铸造）  
（高さ134.7cm、野洲市教育委員会蔵）



## 消えた銅鐸の謎

銅鐸は弥生時代の終わりとともに、突如<sup>とつじょ</sup>として姿を消してしまいます。銅鐸は地中に埋められ、人々の記憶から消えていきました。

なぜ、銅鐸は姿を消したのでしょうか。稲作が普及した弥生時代、農業は余った米を生み、それは貧富の差を生みました。貧富の差が大きくなると、やがて上に立つ人はこの世の暮らしもあの世の暮らしも、普通の人々とは違う立場で過ごすようになるのです。彼らは、皆でおこなうまつりではなく、自らの権威<sup>けんい</sup>を示すまつりを始めたのです。こうして、銅鐸や銅鐸のまつりは消えたのです。

銅鐸にかわって登場したのは、前方後円墳<sup>ぜんぽうこうえんふん</sup>や銅鏡<sup>どうきょう</sup>。それは、畿内<sup>きない</sup>を中心として統一国家への道を歩み始めた、古墳時代の幕開けでもあったのです。

## 銅鐸<sup>ちゅうぞう</sup> 鑄造技術の謎

銅鐸は、鑄型<sup>いがた</sup>に溶かした青銅を流して作ります。たい焼きを作るように、表裏2つの鑄型を使うのです。ただし、銅鐸はたい焼きとは異なり、中はからっぽ。2つの鑄型<sup>そとがた</sup>（外型）の他に、中型<sup>なかがた</sup>が必要なのです（図④）。

銅鐸の厚さは、わずか数mm。現代の職人も舌を巻く高度な技術が、弥生時代に確立されていたのです。

### Topics コウノトリが銅鐸に描かれていた！？

桜ヶ丘5号銅鐸（写真③）および伝香川県出土銅鐸（写真④）に描かれている絵に、鳥があります。描かれた鳥は、頸と脚が長く、口に魚をくわえています。その姿勢からコウノトリ（コウノトリ目コウノトリ科）または、シラサギ類（コウノトリ目サギ科）と考えられていますが、ごく簡単な絵のため、どちらかに限定することはできません。豊岡市は、平成17年にコウノトリの自然放鳥をした町。豊岡に住む私は、コウノトリであってほしいと願っています。



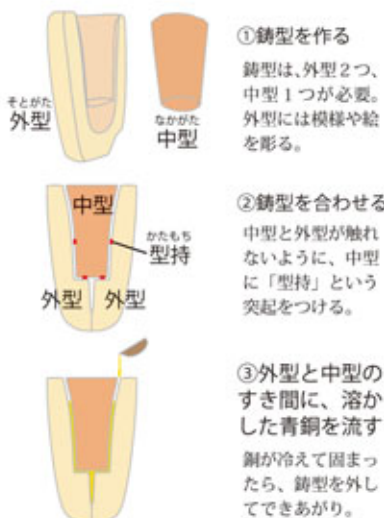
伝香川県出土銅鐸に描かれた鳥



写真③ 国宝 桜ヶ丘5号銅鐸（複製）  
（高さ 39.2cm. 野洲市教育委員会蔵）



写真④ 国宝 伝香川県出土銅鐸（複製）  
（高さ 42.7cm. 野洲市教育委員会蔵）



図④ 銅鐸の作り方



写真⑤ 東奈良遺跡出土の銅鐸鑄型  
（幅 4.6 cm. 野洲市教育委員会蔵）  
※豊岡市気比出土 流水紋3号銅鐸は、この鑄型から作られました。



写真⑥ 復元銅鐸づくりに使った鑄型  
（田原本町教育委員会蔵）



# 但馬国府・国分寺館 名品ギャラリー

## ④ 久田谷銅鐸

久田谷遺跡出土／青銅製／2世紀  
文化庁 蔵・豊岡市教育委員会 保管



銅鐸はふつう、完全な形で横に寝かされ、穴に埋められた状態で見つかります。ところが久田谷銅鐸は、117片（約7.7kg）に砕かれた状態で見つかったのです。破片は、一個体の銅鐸の約4分の1程度の量で、鈕や鏃、鐸身などの部位がほぼ一定量ずつ含まれているのが特徴です。

なぜ、久田谷銅鐸はバラバラだったのでしょうか。その理由には、①砕いて別の銅製品の原料にした、②砕くことで銅鐸がもつ力を封じ込めた、などの説があります。しかし、意図的に砕いたのか、それとも破損したのか、という基本的な事柄も明らかになっていないのが現状です。いずれにせよ、銅鐸が使われなくなった理由を知る上で貴重な資料です。

## 襦布ヶ森遺跡の発掘調査

平成18年8月～9月にかけて、但馬国府跡である襦布ヶ森遺跡の発掘調査をおこないました。場所は、但馬国府・国分寺館の東隣。わずか80㎡ほどの小規模調査でしたが、一辺約90cmの柱穴が並んで見つかり、ここに大きな建物があったことがわかりました。注目されるのは、長さ70cmほどの穴に入れられた土器と石（写真下）。意図的に底を割った甕に、椀で蓋をしていました。甕の中からは何も見つからず、詳しいことはわかりませんが、願い事などを甕の中に封じ込め、まじないをしていたのでしょうか。



調査地の全景（東南から）



まじないをした跡（北から）

## お知らせ

第9回企画展「海に生きる」を開催します。

日本海に面する港町、豊岡市津居山。今回の企画展では、津居山を中心とした地域の漁具を展示し、海とともに生きてきた人々の暮らしを探ります。同時に、発掘調査で見つかった古代の漁具を展示し、海と人間の歴史を考えます。

■会期 平成19年1月11日（木）～4月3日（火）

■会場 但馬国府・国分寺館 企画展示室

\*休館日、入館料は下記の「ご利用案内」の通りです。



出港を待つ  
津居山港の  
底曳網漁船

## 但馬国府・国分寺館 ご利用案内



但馬国府・国分寺館  
Museum of Yatsima Kokufu and Kokubunji

■開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週水曜日（祝日の場合は開館し翌日休館）

年末年始（12月28日～翌年1月4日）

■入館料：大人500(400)円、高校生200(150)円、

小中学生150(100)円／（ ）は20名以上

\*県内の小中学生は無料 \*65歳以上の方は半額